

タンナトリカブト

Aconitum japonicum Thunb.
subsp. *napiforme* (Lév. et Van.) Kadota

キンポウゲ科
Ranunculaceae

カテゴリー

大分県 II
環境庁 掲載なし

選定理由 日本では西南日本に限定して分布するが、県内ではかなり広い地域に生育し、個体数も少なくない。主として林縁に生えるため、植生遷移の進行や人による採取で、生育地の減少や消滅が懸念される。

県内分布 中津・宇佐低地、英彦山・犬ヶ岳山地、玖珠丘陵地・山地、九重火山群、由布・鶴見火山群、別府湾沿岸域、大分川・大野川丘陵地、大野川上流域、祖母・傾山地、

分布域 本州(中国地方) 四国 九州(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島) 朝鮮半島

生育環境 丘陵地から山地の林縁や林内。

現 状 植生が遷移して生育環境が変わり、衰退した生育地がある。

備 考 大陸系遺存植物。国立・国定公園指定植物 [阿蘇くじゅう、耶馬日田英彦山、祖母傾]

ルイヨウショウマ

Actaea asiatica Hara

キンポウゲ科
Ranunculaceae

カテゴリー

大分県 II
環境庁 掲載なし

選定理由 県内の生育地はごく希で、個体数も少ない。谷沿いの林内に生えるため、渓谷林の伐採や谷部の崩壊などにより、生育地の減少や消滅が懸念される。

県内分布 九重火山群、由布・鶴見火山群、大分川・大野川丘陵地、祖母・傾山地

分布域 北海道 本州 四国 九州(大分) 朝鮮半島 中国・中国(東北部) ウスリー

生育環境 低山地の林内。

現 状 安定した渓谷沿いの林内に生えるが、森林伐採や出水などで消滅した生育地がある。

備 考 北方寒冷地要素の植物。本県は、分布の南限域にあたる。

フクジュソウ

Adonis amurensis
Regel et Radde

キンポウゲ科
Ranunculaceae

カテゴリー

大分県 IA
環境庁 II

選定理由 県内の生育地は点在し、個体数は極めて少ない。年々生育地が失われており、辛うじて生育している所が多い。草地開発、人による採取などで、絶滅の危険性が極めて高い。

県内分布 九重火山群、由布・鶴見火山群、大分川・大野川丘陵地

分布域 北海道 本州 九州(大分・宮崎・鹿児島) 千島

生育環境 丘陵地や低山地の谷草原や林縁。

現 状 生育環境が保持され持続している生育地は、ほとんどなくなっている。

備 考 国立公園指定植物 [阿蘇くじゅう]